

# 実況中継「土曜講座」

第8号 2022年11月12日発行

市川学園10月29日の土曜講座 於 北館1F・多目的ホール

熊谷俊行先生

## 地域銀行が果たす役割 ～確かな“きずな”を未来へ～

京葉銀行代表取締役頭取（OB 高28回）



### 熊谷俊行先生のご紹介

- 1951年 千葉県生まれ
- 1976年 市川学園市川高等学校卒業
- 1981年 東京理科大学理学部応用数学科卒業
- 1981年 千葉相互銀行（現 京葉銀行）入行
- 2007年 経営企画部長兼経営企画グループリーダー
- 2009年 取締役経営企画部長
- 2016年 取締役頭取（現職）
- 2018年 第二地方銀行協会会長

### 主な講義内容の紹介

2022年10月の土曜講座は京葉銀行の取締役頭取による、変わりゆく社会において地域銀行がどのような役割を果たすかについての公演でした。

従来の銀行は顧客の資産を預かり（預金）、それを企業や個人に貸出（融資）する「間接金融業」を主なビジネスモデルとし、貸出と預金の際に生じる金利が主な収益基盤でした。しかし、①少子高齢化、②超低金利、③DX（デジタルトランスフォーメーション）などの要因により、その従来型のビジネスモデルを継続していくことが困難となったことで新たに「課題解決を通じた地域・社会貢献」を地域銀行の役割として掲げ、精神的な取り組みをご紹介いただきました。変化の著しい現代社会において、銀行は多様化するニーズや課題に対応しつつ地域活性化や社会貢献に取り組んでいます。〈香取・佐原地区〉の事例では利用されていない古民家をホテルやレストランにリノベーションし、観光客などを呼び込む起爆剤にしている、その地域のことを理解し、様々なビジネスモデルに精通している銀行だからこそできる地域貢献の形を示してくださいました。



### 受講レポートから



・ 今まで詳しく知らなかった銀行や投資の仕組みを自分なりに理解することができた。熊谷先生のお話の中で「長期的に」「分散」して投資することがよいとあったので、まだ時間があるうちに投資して低迷する日本社会を生き抜いていく必要があると感じた。さらに「古いからもういらぬ」ではなく「古いけどみんなで助け合って新しく人が来るようにする」などの取り組みも非常に大切なことだと思った。そして「ローリスクハイリターンはない」というお言葉が勉強にも通ずるということが心にささり、今勉強して将来の夢をかなえたら将来の自分もうれしいのではないかと考えた。（中1男子）

・ 私はまだ大人ではないので、預金や資産を自分で増やすことは難しいが、正しく金融について学び、将来に備えることはできるため、勉強しようと思いました。お話を聞いてみると、銀行はただお金を貸し借りするだけではなく、様々なことに関係を持ち手伝いをしているということを知り、一度銀行に入りたいと思いました。お金の管理に気をつけなければいけないのはもっと先だと思っていたが、20歳から用意しないといけないということは知らなかったため、この講座を受けてよかったと思いました。また、将来お金の管理に困ったら銀行に頼ってみようと思いました。（中1女子）

・ 銀行はただお金の取引をまとめるものだと思っていたけれど、実際には地域の活性化や福祉のサポートが手厚くてすごいと思った。こうやって地域から社会全体への福祉やSDGsの実現につながるの面白そうだと感じた。この分野について全然知らなかったため、今回熊谷先生のお話を聞いてイメージがわき、金融業に興味を持つきっかけになった。



（中3女子）

・ 金融・投資などによる資産形成の流れについて非常にわかりやすく説明していただいた。今は物価だけが上がるスタグフレーションが進行してしまっているため、ただ労働所得を得るだけではなく、それぞれに合った方法で資産を増やすことが肝要であることが理解できた。京葉銀行さんでは個人だけではなく法人への支援、さらには地域振興も行う銀行業務の手広さに魅力を感じた。（中3男子）

・ 今回、先生のお話を聞いて、地域銀行というものについてよく理解することができました。銀行という名前がつくので、金融関係なのはわかっていたのですが、大手の銀行とは違うところがよく分かっていませんでした。しかし、地域のために、金融だけでなく法人の創業から地方創生など多岐にわたっての活動をされていることを知って、とても驚きました。後半、地域開発のお話を聞いていて、様々なアイデアがあることに驚くとともに、納得するものばかりでした。私も地域のことに興味をもって、何か活動してみたいと思いました。（高1女子）



・ 年代別に資産運用が大きく異なるということを知り、地域銀行が相談にのってくれることを非常にありがたいことだと思った。現金を主に使っていた世代の熊谷先生自身、現在では現金をほとんど使うことがないという事実は、DX化の高まりを象徴しているようで驚くとともに時代の変化を感じた。個人・法人問わず銀行の業務が多岐にわたることに加えて、ビジネスマッチング・販路拡大・仕入れの見直しなど顧客の状況に合わせて踏み込んだ取り組みを行っていることなどから、銀行という組織の優秀さを感じた。

（高2男子）